

平成23年度  
実施事業

事務事業名 傷病鳥獣等保護経費

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	2	自然を生かした潤いのあるまちづくり
施策	1	人と自然が共生する潤いと安らぎのある環境の創出
小分類	2	自然環境の保全と回復
主要な施策	1	適切な自然環境保全活動の推進
事務事業番号	002	事業開始年度 平成 21 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産 G
-----	-------	-------	--------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	市民から通報を受けた傷病鳥獣等を適正に保護し、自然に帰す。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	(社)北海道猟友会室蘭支部鳥獣捕獲協議会に業務委託し傷病鳥獣等の保護を実施する。 【平成23年度事業実績】 保護頭(羽)数 14頭(羽) 出勤回数 26回 保護鳥獣 野鳥、野生の小動物等
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	鳥獣等の捕獲には危険が伴うため、これまでと同様に鳥獣等の知識をもつ専門の団体に事業を委託する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費(財源内訳)の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	164	200	200	200	200
事業費合計			164	200	200	200	200

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果指標	保護頭(羽)数	頭(羽)	目標値	12	22	15	15	15
			実績値	17	14			
	出勤回数	回	目標値	12	22	22	22	22
			実績値	17	26			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>現状の状態</p> <p>市民からの通報に応じて出動し、保護した回数に応じて委託料の支払いを行っていた。</p> <p>問題点、課題等</p> <p>1 回の出動につき支払う金額が一定であり、出動時間に見合った委託料ではなかった。</p>	<p>出動時間に応じた委託料とするため、委託契約における委託料の算出根拠の変更を行った。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）			《Check》	
<b>1. 事務事業の妥当性について</b>				
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	→	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見	野生動物の保護は市で財源を確保しなければ実施が困難であるため、市が主体として行うことは妥当である。
		民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である		
		国、道、他団体等との連携や広域化が可能である		
		国、道、民間等の事業と重複・類似している		
<b>2. 事務事業の必要性について</b>				
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	→	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見	傷病鳥獣等の発見にかかる通報件数は増加傾向にあり、その取扱いについては鳥獣に対する専門的な知見が必要となるため、必要性の高い事業である。
		市民アンケートの結果から必要性が高い		
		社会情勢、地域事情等から必要性が高い		
		市民の大部分が関連することから必要性が高い		
<b>3. 事務事業の効率性について</b>				
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	→	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見	市民の通報に対して24時間体制での対応が求められることから、出動時間数に応じての委託契約であり、効率性の高い事業である。
		市で実施するほうが民間委託より効率性が高い		
		多額の経費や労力を要するがやむを得ない		
		将来的に効率性を向上できる		
<b>4. 事務事業の成果について</b>				
目的を達成するための成果はあがっていますか？	→	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見	野生動物に関する通報が多くなっており、鳥獣保護思想の向上が図られている。また、保護事業が適宜遂行できている。
		市民、団体等の声から成果を感じられる		
		目に見える形で成果があがっている		
		成果の把握は困難である		

担当グループによる評価		《Check》
維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠) 野生鳥獣等の自然復帰や市民の通報に適切に対応するために必要な事業である。	

行政評価会議による評価		《Check》
維持	備考	